学びのひろば旭

vol.63

旭市教育委員会

庶務課（☎55-5721）　生涯学習課（☎55-5727）
学校教育課（☎55-5724）　体育振興課（☎64-1132）

地域子ども教室

地域住民を指導者に子どもたちと交流

地域子ども教室は学校や公民館などを利用し、地域の住民を指導者として物事を習い、さまざまなことを経験・体験する場です。子どもたちの放課後や週末における居場所づくりの場であり、地域の交流の場でもあります。次代を担う子どもたちが、心豊かで健やかにたくましく成長することを目的に開催しています。

各教室の開催回数はさまざまで、今年度は全部で22の教室が開催されています。

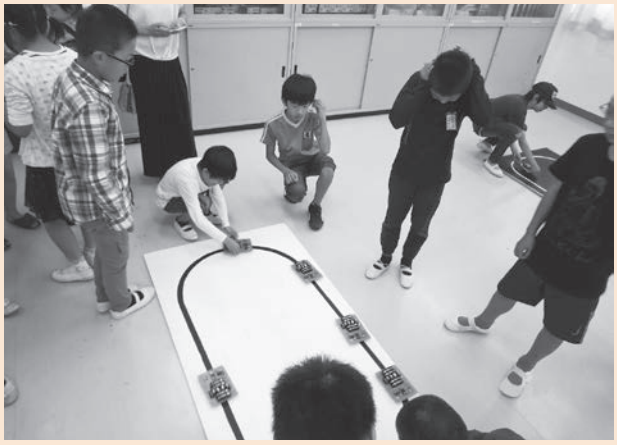
ものづくり科学教室でロボットの完成に歓喜

ものづくり科学教室は東総工業高等学校の協力により、子どもたちにものづくりの楽しさを体験してもらい、科学に興味と関心を持ってもらおうと、小学校高学年を対象に開催しています。

学校では習わないハンダごてを使い、電子部品を組み立て、動くロボットを作ります。初めて使うハンダごてに戸惑う子どもたちも、先生の丁寧な指導で次第に使いこなせるようになります。ハンダが上手く付いていなかったり、違う所に部品を付けてしまったりするとロボットは動きません。ロボットが完成すると、ちゃんと動くかどうか動作確認をします。参加者全員がドキドキしながら自分のロボットを見守り、ロボットが正しく動いたときは大きな声で喜んでいます。

科学に興味や関心があり、チャレンジしてみたいと思う人は参加してみませんか。

ハンダ付けの指導を受ける児童



線を感知して走るロボットが完成

あさひ輝いた人々

第４回

和算（今の数学）の天才

花香（はなか） 安精（あんせい）（1783～1842年）

顕彰碑

花香安精は和算を学んだ人として、研究者の間でよく知られています。和算とは江戸時代に発達した日本独自の数学です。明治時代になると西洋から数学が入ってきて、和算はあまり取り上げられなくなりましたが、現在も植木算、鶴亀算などの名前で児童生徒が学んでいます。

天明３（1783）年（天明２年生まれともいわれています）萬歳村関戸の高木長兵衛の次男として生まれ、後に花香家に養子に行きました。幼名を雄助といい、通称伝右衛門、椿園（ちんえん）と号しました。幼い頃から和算に興味を持ち、点竄術（てんざん）（高校などで学習する代数学のこと）を藤田嘉言（よしとき）に、天文学を石坂常堅（つねかた）に学びました。

安精は和算に関して多くの本を書き、東大社、龍福寺、芝山仁王尊など、寺や神社にある算額（さんがく）（和算の問題を書いて神社に奉納した絵馬のこと）について解説をしています。自身も香取神宮に算額を奉納しました。龍福寺には、安精の門人たちが算額（縦1.3m、横3.0m）を奉納（現在は大原幽学記念館に展示）しました。

安精の書いた本は、花香文庫として千葉県立中央図書館に寄贈され「房総数学文庫」という名前に改められ、千葉県指定有形文化財になっています。香取神宮に奉納された算額は「側円（だえん）３個が交わっているとき大（甲）円１個と小（乙）円６個が右下図のようにあり、甲円の直径が568寸であるとき、乙円の直径はいくらか」という問題です。旭市出身でこのような難しい和算を考え、解説した人がいるとは驚きです。

安精は天保13（1842）年に亡くなりました。墓と顕彰碑は萬歳東福寺にあり、市の指定文化財になっています。

龍福寺の算額

千葉県の算学より引用